

刊夕 日六十二月九



常識講座 本日の取引は左の如し 出廻四百五貫 最高四圓五...

軍事思想普及 講演會 來月廿日平町で 縣主催軍人後援思想普及講演會...

長十郎梨の生産終る 十月末迄續く 石城産梨の長十郎種は茲一兩...

本紙一千號と記念事業 本紙は後數號を以て一千號を迎ふる...

日立へ遠征 入山炭礦競技部では來月二十四日...

古川橋架換へ 飯野村地内古川橋は腐朽甚だしいので...

飯野村匡救土木事業 工費二千三百圓で着手 飯野村では夏井川改修工事開始...

中野氏對平町の戸數割の行政裁判

第二回は十一月十六日

平町大町中野勇吉氏が平町から賦課された七年度特別戸數割八百三十四圓四十錢を不當な課税であるとして昨年十二月郡山市田村辯護士を代理人として異議を申立て平町會に於て理由立たずとの決定を受けたのを不服として縣參事會に訴願し、之又却下され更に行政裁判所に出訴中であつたがこの第一回口頭審問は去る二十一日東京行政裁判所第三部法廷で同裁判所長官清水澄氏(我國法學界の權威)係りで...

新平第一校長は篠山廉氏に内定

愈よ今日明日中に發令か

平第一小學校長は昔我直治氏の勇退により缺員のまゝとなつてゐたがこの後任はかねて贈されてゐた安達郡本宮小學校長兼本宮實科高等女學校校長である本郡警備村出身篠山廉氏とほぼ内定し同氏は二十五日付前記校長を依願退職したので大休今日明日中に平第一校長任命の發令があるものと見られる。

不況・營業不振から審員資格者減る

平町で該當者調査中

平町では來月一日から十一月末日迄の間に陪審員抽籤を執行するので目下資格者の調査を行つてゐるが陪審員資格者は直接國稅三圓以上の納付者と規定されて居り平町では昨年は四百八十二名あつたが最近不況による營業不振から資格をさう失する者多く結局本年廣の資格者は二十名位の減少であらうと見られてゐる。

四倉秋繭市況

四倉繭市場の晩秋繭取引は漸やく最盛期に入つたが二十五日...

平町の上水道

水質のよい事、全國有數 縣の検査官から折紙

縣衛生課落合技手は此程縣下各都市の上水道水質検査を行つたが其の際平町の上水道は設備ならびに水質の良好なることに於て全國でも有數であるとの折紙をつけられた、これは水源である好間川の水質の良好によることは勿論であるがまた上水道の濾過設備その他の優秀であることが證明されたわけである。

平町東西對抗陸上競技大會

來月中旬磐中で開催

平町青年團では來月中旬磐中グランドで平町東西對抗陸上競技大會を開催することに決めた、これは三丁目常盤銀行支店を中心として町を東西に分け優勝競争を争ふもの、青年團体育部では目下競技種目ならびに出場資格その他について研究中。

平町國稅滯納

平町では最近三ヶ年間の國稅滯納處分差押へを調査したがそれによると

年度	滯納處分	次年繰越
四年	三三圓四角	八四圓二角
五年	四三圓四角	三三圓四角
六年	四三圓四角	三三圓四角

産業青年の發會式

きのふ大浦村で

石城郡大浦村の産業青年會では昨二十六日午後三時から同村小學校に於て發會式を舉げたが會員出席五十名、種口郡駐在産業主事補及び木田郡産業部主事補、縣支會主事補等臨席同村長で前代議士の木村清治氏の講演終つて午後七時から産業に関する活動寫眞あり觀衆多數盛會であつたが入會青年百七十五名あると...

古川橋架換へ

二十八日工事入札

飯野村地内古川橋は腐朽甚だしいので今度工費八千圓でモダンな鐵筋コンクリート橋に架換へることとなり二十八日午前十一時から平土木監督所で工事入札を行ふ。

飯野村匡救土木事業

工費二千三百圓で着手

飯野村では夏井川改修工事開始の關係から八年度匡救事業費の割當てに洩れたのでかねて縣當局へ同村は夏井川には最も遠距離にあり失業者は同河川改修工事の恩澤に浴する...

第四校敷地について

寄書 Y 生寄

余は製菓業に賛成である、第一の理由は近距離にある、古川端の様な往復半里もある遠い所にするなら何も初めから期待しない第一や第三小學校を殖やしして歩けば済むのである、口共れに今度の敷地は公會堂も合建する相であるが此のセチ辛しい世に古川邊まで足を棒に一席の話を聞きに行く香氣者があるか、多年理想の運動場も設置し青年軍人の訓練や競技に資すると云ふが斯かるは見物人なぐしては成り立たず、若しくは興味ないものである、現在の中學校グラウンドを見るがい、あまり遠いので町民は...

本紙一千號と記念事業

本紙は後數號を以て一千號を迎ふることにいたしました、財界不況の中に産聲を上げて更に深刻な不況の中の三ヶ年余、此所まで育ち得ましたことは偏に各位の御援助の賜であること感謝いたします。

追記(余は實地踏査をして元製菓會社裏の幅約三十間を將來の道路及び宅地に殘し其の次を運動場等の敷地にすれば理想的なりと感じた)(了)

辛苦經營 一千號は吾が社にとつて記念すべき紙齢でありますので何か一つ適當なるを起したい考から非常の時局に則して最も意義のある應はしいものと認めまして五奉仕會なるものを企てました、本會の趣旨目的金額例へば百名の場合に於て金五圓である一ヶ年の金六十圓也を平町長學校長、共濟會委員、町會議員其他の有志を相談役として現金の保管及び有効適切な費途(貧民救濟その他)に供するものであります、何卒多數篤志家の御賛同を御願ひ致します。

昭和八年九月十八日 新いわき新聞社

